



今回は、「エコドライブ」のお話です

地球温暖化を防ぐためには、日常生活や事業活動から排出される CO_2 を減らすことが重要です。

なかでも自動車は、私たちの暮らしに欠かせない一方、ガソリンなどを使用することで CO_2 を排出します。

そのため、自動車を運転する際には、燃料の消費を抑え、CO_2 の排出量を減らすため、環境に配慮した運転（エコドライブ）が重要です。

例えば、発進時にアクセルをゆっくり踏む「ふんわりアクセル」や、車間距離を十分にとって無駄な加減速を減らす、不要なアイドリングを控えるなど、少しの心がけで燃料の消費を抑えられます。

また、エコドライブは交通事故の防止にもつながります。急発進・急ブレーキなどを避け、周囲の交通状況をよく確認しながら運転することで、環境にも人にもやさしい運転を実践しましょう。

【ここに注目】

毎年 11 月は「エコドライブ推進月間」です。行楽や帰省などで自動車を利用する機会が多くなる時期です。

地球温暖化対策は、日々の運転を少し見直すことから始めることができます。

この機会に、環境を意識した運転や安全運転を心掛け、「エコドライブ」を実践してみましょう。

関連ＵＲＬ

●環境省「エコドライブ」
https://www.env.go.jp/air/car/ecodrive/

●デコ活「エコドライブとは」
https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/ecodriver/intro/

認知症地域支援推進員のつぶやき　No. 99

相手の視点に立つことの大切さ

先日、他の認知症地域支援推進員さんから、認知症疑いの方のお話を聞く機会がありました。

その方は、毎日決まった時間に買い物をしますが、毎回お札で支払っていたので、財布に小銭がたまっていました。それを見て「認知症による行動ではないか」と考えた推進員さんは、時間を気にせず会計できるスローレジの利用などの提案をしました。しかし本人は「必要ない、困っていない」とのことでした。

実はこの方、たまった小銭を配食サービスの支払いに使用しており、宅配員さんからは感謝されていたそうです。きっと宅配員さんを気遣って、おつりが出ないように支払うため、小銭をとっておいたのでしょう。

知識があると、つい「症状への対応」を考えてしまいがちです。しかし一度立ち止まり、「本人はどう思っているのだろう？」「何に困っているのかな？」と、本人の視点に立つことが大切なのだと感じました。これからは、認知症の方の「支援者」ではなく、相手の想いを尊重しながら一緒に歩む「伴走者」でありたいと思います。

私たちはここにいます！

認知症地域支援推進員配置施設

●利根町地域包括支援センター　☎６８－２２１１
●複合福祉施設　響　☎６１－８５００
●地域密着型介護施設　あおば　☎８５－４８６０
●利根町保健福祉センター　☎６８－８２９１
●介護老人保健施設　もえぎ野　☎８４－６０８１